

会議名	ゼロ・ウェイスト市長懇談会			
日時	平成22年4月22日（木） 午後4時～5時			
場所	市長会議室			
参加者	所属	氏名	所属	氏名
	熊本学園大学	宮北	熊本学園大学	藤本（延）
	水俣自然学校	小里	リサイクル推進員	桑畑
	市議会議員	西田	環境モデル都市推進課	川野・岡本・池崎
	計			8名
欠席者	エコタウン協議会	田中	エコネットみなまた	山下
	水光社	廣田	環不知火プランニング	森山
	茶生産者	松本	婦人会	柏木
	ごみ減量女性連絡会議	永野	商工観光振興課	光田
	環境クリーンセンター	福田		
	計			9名
内容	<p>5月に環境自治体会議があり、ゼロ・ウェイストについての部会が設けられるので、その前に水俣のゼロ・ウェイストに向けた取組や理念、メンバーの思いなどを知ってもらうため、懇談会を開催した。</p> <p><b>1. ゼロ・ウェイスト宣言までの経緯</b></p> <p>11月22日にゼロ・ウェイスト宣言をしたが、宣言作成までがハードスケジュールだったため中身を含めて理解できてない部分がある。宣言文は、円卓会議を中心に作業部会で、意見交換を重ねながら作成した。水俣のゼロ・ウェイスト宣言をして、取組を知ってもらう前に、パネルディスカッションとなったので、具体的な議論に踏み込めなかったのは残念だった。せっきくの宣言が市民にも伝わっていない。</p> <p>（※経緯については資料参照）</p> <p><b>2. 水俣市のゼロ・ウェイスト宣言の特徴（上勝町との比較から）</b></p> <p>●水俣市のゼロ・ウェイスト宣言にどのような特徴があるのか●</p> <p>※資料参照：宣言文に説明をつけたもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宣言の前文に「たましい」がこめられている</li> <li>なぜゼロ・ウェイスト宣言を？そういう思いが全て前文にこめられている。</li> <li>・雲に・・・</li> </ul> <p>水俣の自然を伝えられる言葉として、校歌から引用（新しい言葉より、皆の心の中にある地元の美しさを読み込んだもの）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな暮らしの中水俣病の経験。</li> </ul> <p>水俣病は、廃棄物問題。その意味で、ごみを出るところから減らして行こうという考え方は、見方を変えればゼロ・ウェイストと似ている部分がある。そのため、水俣はゼロ・ウェイストという言葉を用いた言葉で主張し続けてところともいえる。あらためてゼロ・ウェイストという言葉を使うことで、ゼロ・ウェイストの取組をしている人たちともつながっていける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水俣のゼロ・ウェイストについての考え方</li> </ul> <p>ゼロ・ウェイスト明確な定義は存在しないが、水俣のゼロ・ウェイストについての考え方は、「資源・エネルギーの消費を減らす。暮らしの中の無駄を省き、使うものをできるだけまわす、ごみをかぎりなく減らす、そのための暮らしや仕組みをみんなでつくる。」</p> <p>入ってくるものをできるだけ減らし、できるだけ循環をさせる。でていくものも減らす。単純だが、図式としてはすべて。</p>			

・宣言をすることの意義

世界中にゼロ・ウェイスト宣言をつくるまちが増えており、そういったところと、将来にわたって誰もが安心して住める町を作りたいという思いを共有していける。ゼロ・ウェイストは単なるゴミ政策ではなく暮らし全体に広がる考え方。

・ 注釈 11 番について

水俣市は水俣病の経験を貴重な教訓とし、あらゆる生物の生命基盤の自然環境の変化は産業社会のあり方や人々の暮らしののあり方であると深く認識。

・ 水俣はゼロ・ウェイストという言葉がなくても別の言葉で表現をして実践をしてきた街。

ゼロ・ウェイストについて、概念から始まったのではなく、経験からスタートしている。その意味で、水俣から発信することはすごく説得力を持っている。

前文の思い：

・ 私たちの思いが向かう目標の為に、同じ思いを持つ仲間同士がつながるために、水俣市はゼロ・ウェイスト宣言をします！！

・ 2026年までにという目標設定→明確に実現させる。

・ ニューージーランド7割以上の自治体がゼロ・ウェイスト宣言をしている。10年ぐらい前までゴミに関する法律がなかった。そういうところに広がる→いい街にしたい！いい暮らしにしたい！という思い。それをずっと言ってきた水俣が、仲間としてつなげる役割を担う。

水俣が目指す姿：

どのように宣言を実現するのか（名前は同じだが、精神が若干違う）

経験を活かす。教訓を生かす。水俣の経験を活かす。

・ 市役所が勝手にゼロ・ウェイスト宣言をしたというのではなくそれぞれの人が自分、家・地区での、ゼロ・ウェイスト宣言をしてもいい。

例えば、私のゼロ・ウェイスト宣言：「川をきれいにするためにせっけんを使う」など。

・ 継続するゼロ・ウェイスト：継続することを明確に！！

・ 広げる・つながる：環境モデル都市と同時にゼロ・ウェイスト都市として世界中のモデルとなる（ゴミ政策だけではない！）

・ 上勝町（日本で最初にゼロ・ウェイストを宣言）との違い

①宣言の構成 水俣：思い→具体的中身→宣言

上勝：宣言→中身

②上勝では、ごみの再利用やごみ処理の中心に宣言している。

なぜなら、上勝は山間部で平地がなく、処理施設をつくるのが困難

広域のごみ処理施設を作る→金銭がかかる

上勝の主張：「製造から販売につながる逆ルートで、製造業者が作ったものは回収する」という法的制度によって、ごみを減らす。

（例）使用済みのボールペンをメーカーが回収など

ただし、それは一つの市町村のみでは困難。だから、水俣がそれらをつなげる役割を果たし、発信してける役割を担っていけるのではないかな。

水俣のゼロ・ウェイスト宣言は、経験・自然をいかしたゼロ・ウェイストの本来の姿を示したものの。それは、水俣市民がつくったものであり、水俣の経験や暮らしにつながったもの。

市長：宣言が市民にどのように伝わっているのかが大きな問題。現状のままだと、宣言が絵に描いた話になるのではないかな？という危機意識を持っている。足元を見つめなおしていかなければ

れば…。

市としてのPRの仕方等を見直し、目に見える形で取り組んでいくことが大切だと考えている

### 3. メンバーの想い・意見交換

● 例えば、イベント時にゼロ・ウェストに取り組む自治体として、ごみを出さない工夫をすれば、市民にも伝わりやすいのではないか。

例えば、使い捨てのお箸や食器をなるべく使わないように、マイ箸、マイ皿等の持参を呼びかけるなど。マスコミが取材をしたりすれば、広がりやすい。

また、会議でも、ペットボトルが並んでいる→水筒をもって来るなどとする必要も必要。

● 役所・公共施設に張り紙などして、「こういう事やっている」とうのが目で見てわかってもらうことはできるのではないか。

● ゼロ・ウェストが関わっているところには張り紙をするようにする！

今まで、皆がゼロ・ウェストとっていなかったことが感覚的にわかるようになるのではないか。

● 資源ごみステーション調査について

目標は100ステーションで調査員150名を考えている。現実には困難だが、できる範囲で実施したい。市民への協力も呼びかけたい。

調査をすることで、水俣の環境への取組の原点や、足元をもう一度見直すことが出来るのではないか。

● リサイクル推進員から、資源ごみはうまくいってるのに、燃やすごみがうまくいってないのではないか。なぜ調査をしないのかといった質問もあった。リサイクル推進員にも、協力を呼びかけ、1地区に1人出してもらいたいと考えている。

⇒ 燃えるごみについては、クリーンセンターで別途調査を予定している。全区から調査をして各区の傾向をまとめ、悪いところから指導なり、分別の仕方の学習会を開くなど考えている。

● 組成調査（燃えるごみについて）

半分ぐらいは紙おむつだった。赤ちゃんだけでなく、高齢者の分もあるので、今後増えていくだろう。これをビジネスチャンスと捉えるべき。

例えば、きちんと清潔にあらって、清潔なおむつを宅配するサービスが廉価であれば、環境にもいいし、ビジネスにもなる。水俣から新しいビジネスモデルを作っていけるのではないか。

⇒新聞記事の紹介。福岡の幼稚園で、一括して布パンツを購入・利用しているところがあるようだ。そういったことができれば紙おむつが減る＝ごみが減るし、子どもの排便の自立も促せる。

大人については、布に変えるのは難しいので、いつかの地点で紙おむつリサイクル設備の導入も検討する必要があるのではないか。

●葉山町の取組「ごみ半減袋」

今までのごみの量を測って半分でおさまるような袋を作成し、利用してもらったところ、ゴミの量もほぼ半減したという取組がなされている。

水俣でも、レジ袋の無料配布のとりやめに併せて実施するのはいい機会。

無料配布取り止めから、次の段階につなげることが大事

●水俣は、水俣病から再生してきている自然が大切。だが、首都コンでも、市民共同の調査が弱いとの指摘があった。水俣湾について調べる（そこにはどういう生物がいるかなど基本的なことを調べるのが大事である）→将来にわたって水俣がほこれるものにするおとが大事であ

る！！

⇒6月補正で予算（視察など）を申請しようと考えている。また、「環境首都委員会を立ち上げ、取組を進めていきたい。

●ゼロ・ウェスト宣言をすることで、今までやってきたことのつながりや、政策を再確認したい。横の線でつながる事が大事である！！